

(19) 世界知的所有権機関  
国際事務局(43) 国際公開日  
2005 年 10 月 27 日 (27.10.2005)

PCT

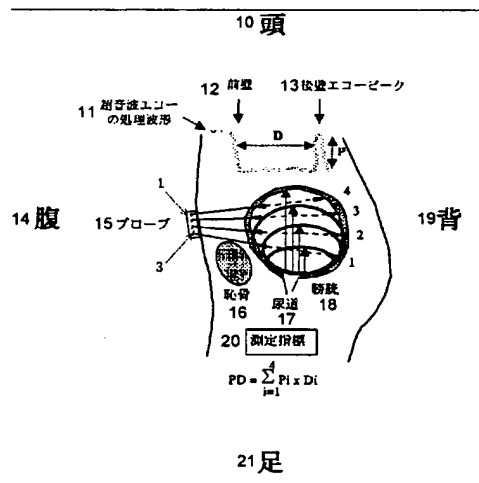
(10) 国際公開番号  
WO 2005/099582 A1

- (51) 国際特許分類<sup>7</sup>: A61B 8/08
- (21) 国際出願番号: PCT/JP2004/019348
- (22) 国際出願日: 2004 年 12 月 24 日 (24.12.2004)
- (25) 国際出願の言語: 日本語
- (26) 国際公開の言語: 日本語
- (30) 優先権データ:  
特願2004-105737 2004 年 3 月 31 日 (31.03.2004) JP
- (71) 出願人 (米国を除く全ての指定国について): 独立行政法人産業技術総合研究所 (NATIONAL INSTITUTE OF ADVANCED INDUSTRIAL SCIENCE AND TECHNOLOGY) [JP/JP]; 〒1008921 東京都千代田区霞が関一丁目 3 番 1 号 Tokyo (JP). 株式会社タケシバエンジニアリング (TAKESHIBA ENGINEERING CO., LTD.) [JP/JP]; 〒2291124 神奈川県相模原市田名 3 3 7 1-3 1 Kanagawa (JP).
- (72) 発明者; および
- (75) 発明者/出願人 (米国についてのみ): 児玉 廣之 (KODAMA, Hiroyuki) [JP/JP]; 〒3058566 茨城県つくば市東 1-1-1 中央第 6 独立行政法人産業技術総合研究所内 Ibaraki (JP). ロノ 町 康夫 (KUCHINO-MACHI, Yasuo) [JP/JP]; 〒3058566 茨城県つくば市東 1-1-1 中央第 6 独立行政法人産業技術総合研究所内 Ibaraki (JP). 吉村 尚 (YOSHIMURA, Hisashi) [JP/JP]; 〒2291124 神奈川県相模原市田名 3 3 7 1-3 1 株式会社タケシバエンジニアリング内 Kanagawa (JP).
- (74) 代理人: 社本 一夫, 外 (SHAMOTO, ICHIO et al.); 〒1000004 東京都千代田区大手町二丁目 2 番 1 号 新大手町ビル 2 0 6 区 ユアサハラ法律特許事務所 Tokyo (JP).

[続葉有]

(54) Title: UNTRASONIC QUANTITY OF URINE SENSOR

(54) 発明の名称: 超音波尿量センサ



- 10 HEAD  
11 PROCESSED WAVEFORM OF ULTRASONIC ECHO  
12 ANTERIOR WALL  
13 POSTERIOR WALL ECHO PEAK  
14 ABDOMEN  
15 PROBE  
16 PUBIC BONE  
17 URETHRA  
18 BLADDER  
19 BACK  
20 MEASUREMENT INDEX  
21 LEG

(57) Abstract: An ultrasonic quantity of urine sensor capable of estimating the quantity of urine in a bladder accurately, corresponding to the individual and the situation by incorporating a space-time series processing system for the estimation of the quantity of urine. The ultrasonic quantity of urine sensor comprises a probe (1) having a plurality of ultrasonic wave oscillation elements (3) for emitting an ultrasonic wave toward the wall face of the bladder and fitted to the surface of the abdominal part, and a processing section (2) for detecting/processing the reflection echo of the ultrasonic wave oscillated by the ultrasonic wave oscillation elements (3) in the probe (1) and reflected from the wall face of the bladder. The ultrasonic wave oscillation elements are arranged in the direction of expansion of the bladder.

(57) 要約: 膀胱内の尿量を個人や状況に対応して的確に推定する時空系列処理方式を組み込むことにより、膀胱内の尿量を個人や状況に対応して的確推定することができる超音波尿量センサを得る。超音波を膀胱壁面に向けて発振する複数の超音波発振素子 3 を有し、腹部表面上に装着されたプローブ 1 と、プローブ 1 の複数の超音波発振素子 3 が発振した超音波の膀胱壁面からの反射エコーを検出・処理する処理部 2 を備え、複数の超音波発振素子は、膀胱の拡張方向に沿って配列されている。



(81) 指定国 (表示のない限り、全ての種類の国内保護が可能): AE, AG, AL, AM, AT, AU, AZ, BA, BB, BG, BR, BW, BY, BZ, CA, CH, CN, CO, CR, CU, CZ, DE, DK, DM, DZ, EC, EE, EG, ES, FI, GB, GD, GE, GH, GM, HR, HU, ID, IL, IN, IS, JP, KE, KG, KP, KR, KZ, LC, LK, LR, LS, LT, LU, LV, MA, MD, MG, MK, MN, MW, MX, MZ, NA, NI, NO, NZ, OM, PG, PH, PL, PT, RO, RU, SC, SD, SE, SG, SK, SL, SM, SY, TJ, TM, TN, TR, TT, TZ, UA, UG, US, UZ, VC, VN, YU, ZA, ZM, ZW.

(84) 指定国 (表示のない限り、全ての種類の広域保護が可能): ARIPO (BW, GH, GM, KE, LS, MW, MZ, NA, SD, SL, SZ, TZ, UG, ZM, ZW), ユーラシア (AM, AZ,

BY, KG, KZ, MD, RU, TJ, TM), ヨーロッパ (AT, BE, BG, CH, CY, CZ, DE, DK, EE, ES, FI, FR, GB, GR, HU, IE, IS, IT, LT, LU, MC, NL, PL, PT, RO, SE, SI, SK, TR), OAPI (BF, BJ, CF, CG, CI, CM, GA, GN, GQ, GW, ML, MR, NE, SN, TD, TG).

添付公開書類:  
— 国際調査報告書

2文字コード及び他の略語については、定期発行される各PCTガゼットの巻頭に掲載されている「コードと略語のガイダンスノート」を参照。

## 明 細 書

### 超音波尿量センサ

#### 技術分野

- [0001] 本発明は、超音波尿量センサに関するものであり、特に、膀胱内の尿量を個人や状況に対応して的確に推定することが可能な超音波尿量センサに関するものである。

#### 背景技術

- [0002] 膀胱内の尿量を、超音波を用いて実用的・簡易的に測定するためには、膀胱の生理特性を踏まえた方式を採用することが必要不可欠である(例えば、特許文献1参照。 )。
- [0003] 特許文献1:特許第2088137号公報 上記特許文献1に記載された従来の尿量センサの方式(照射角度自動選択機能付き排尿警報装置)は、照射角度が異なる複数の振動子を用い、受信波レベルが最大となる超音波照射角度の振動子が自動的に選択され、この振動子により検知される前壁後壁間距離を膀胱内の尿量推定の指標として用いるものであった。
- [0004] 上記特許文献1における指標を組み込んだセンサによる臨床測定を実施した結果、採用した指標(膀胱前壁後壁間距離)は膀胱容量変化を2値化する特性を示した。ある程度以上の膀胱容量に達すればアラームを発生するという簡易的な用途には適していると言えるが、より詳細な膀胱容量変化を必要とする場合には対応できないものであることが判明した。
- [0005] 排尿のコントロールは、交感・副交感神経などの自律神経系支配下であり、寒冷刺激暴露下や精神的緊張時には通常の排尿パターンとは異なるという例に見られるように、定型的ではない複雑な様相を呈する場合があります。きめ細かな排尿管理を実施するためには、詳細な膀胱容量変化が捉えられるセンサが必要である。そのためには、膀胱拡張の特性を詳細に分析することが必要であった。
- [0006] 本発明は、上記特許文献等の従来における問題点の解決を図るべく、10年余りの歳月を費やし実施してきた包括的な検討によって到達した成果であり、膀胱内の尿

量を個人や状況に対応して的確に推定する時空系列処理方式を組み込むことにより、膀胱内の尿量を個人や状況に対応して的確に推定することができる超音波尿量センサを提供することを目的とする。

[0007] 本発明は、超音波を膀胱壁面に向けて発振する複数の超音波発振素子を有し、超音波伝達媒体を介して腹部表面上に装着されたプローブと、前記プローブの前記複数の超音波発振素子が発振した超音波の膀胱壁面からの反射エコーを検出・処理する処理部とを備え、前記複数の超音波発振素子は、膀胱の拡張方向に沿って配列されていることを特徴とする超音波尿量センサを提供する。

[0008] また、前記プローブは、該プローブの下端部が、腹部表面上の恥骨上端部に位置するように装着されている方が好ましい。また、前記プローブは、測定時だけでなく常時、超音波伝達媒体を介して腹部表面上に装着させることが可能である。また、前記処理部は、前記各超音波発振素子が発振した超音波の膀胱壁面からの反射エコーから、膀胱の後壁の超音波エコーピーク(P)を検出し、この検出された超音波エコーピーク(P)と、該超音波エコーピーク(P)から特定される膀胱の前壁と後壁との距離(D)とを各超音波発振素子においてそれぞれ乗算し、その乗算された各数値を加算して測定指標値(PD)を算出し、前記測定指標値(PD)と、解剖構造に基づく個人差や測定中の姿勢に対応した係数とを乗算することによって膀胱内の尿量を精度良く推定することができる。また、前記プローブは、4つの超音波発振素子を有することができる。

[0009] また、前記処理部は、ハードウェア部とCPU部とを備えており、前記ハードウェア部は、前記プローブの複数の超音波発振素子及び前記CPU部と電氣的に接続されており、低雑音増幅器、AD変換回路、波形メモリ、タイミング発生回路及び超音波振動子励振回路を備えている。また、前記制御部は、予め設定された時間ごとに信号を出力するリアルタイムクロックを備えており、前記制御部は、該リアルタイムクロックから出力された信号に基づいて前記ハードウェア部を制御することが可能である。また、前記CPU部は、前記低雑音増幅器のゲインを制御するゲイン制御部を備えており、該ゲイン制御部によって前記低雑音増幅器の増幅率を自動制御することが可能である。また、前記超音波尿量センサは、着脱可能な記憶媒体を更に備えており、前

記CPU部は、前記記憶媒体と電氣的に接続されることが可能である。また、前記超音波尿量センサは、無線データ通信機能を更に備えており、前記CPU部は、前記無線データ通信機能と電氣的に接続されることが可能である。さらに、前記プローブは、3軸加速度センサを備えることが可能である。

### 本発明の効果

- [0010] 本発明によれば、解剖構造等の個人差や臥位・立位・座位姿勢等の状況にも対応することができるため、膀胱内の尿量を的確に精度良く推定することができる。

### 図面の簡単な説明

- [0011] [図1]図1は、本発明にかかる超音波尿量センサの実施の形態を示す概略図である。
- [0012] [図2]図2は、超音波尿量センサに適用可能な超音波発振素子を示す概略図である。
- [0013] [図3]図3(a)は、測定データを示すグラフであり、図3(b)は、図3(a)に示す測定データを時空系列平均化処理したときのデータを示すグラフである。
- [0014] [図4]図4は、他の実施例を示す概略図である。

### 発明を実施するための最良の形態

- [0015] 以下、本発明にかかる超音波尿量センサ(尿量モニタ)を実施するための最良の形態について図面を参照しながら述べる。本発明にかかる超音波尿量センサは、センサ測定実施中の姿勢変化や体動によるセンサ測定結果への影響及び膀胱の周囲臓器・組織等の影響下で変化する膀胱壁面構造の時系列特性に由来する膀胱超音波エコーデータのバラ付きを処理するために、ユーザーの過去データに対して姿勢等のセンサ使用条件を加味した学習処理を施してパーソナルフィッティングなどの個人対応のモデル化を行なって得られる個人の基準を参照しながら予測処理することにより、効果的に各種変動に対処することを可能とする、膀胱容量を個人や状況に対応して的確に推定する時空系列処理方式を組み込んだことを特徴とする超音波尿量センサである。
- [0016] 膀胱壁面の時空間的構造変化は超音波エコーの変化を生じさせる。この変化を適切に処理することが膀胱容量推定の精度を確保するために必要な手続きとなる。超音波エコーの変化の中には、膀胱拡張を反映する膀胱の空間的变化を表わす成分

と膀胱を取巻く組織・器官からの影響による時間的変動成分が含まれている。これらの成分を用途に応じて適切に処理することにより、所望の膀胱生理情報を取得することが可能である。本発明は、膀胱容量変化を精度良く測定するための時空系列処理に関わるものであり、以下、詳細に説明する。

[0017] 図1には、超音波尿量センサ(尿量モニタ)を示している。この超音波尿量センサは、プローブ(超音波探触子)1と、処理部2から主に構成されている。図1及び図2に示すように、プローブ1は、超音波を膀胱壁面に向けて発振する4つの超音波発振素子3を備えており、このプローブ1は、プローブ1の下端部が、腹部表面上の恥骨上端部に位置するように腹部表面上に装着されている。当業者には周知であるように、プローブ1を腹部表面に直接装着させると、プローブ1と腹部表面との間の空気層によって効率よく超音波を伝達することができないため、プローブ1は、超音波ゼリー等の超音波伝達媒体を介して腹部表面に接触された状態で装着される。4つの超音波発振素子3は、図1に示すように、膀胱の拡張方向(図1において略上下方向)に沿って配列されている。骨盤内にある膀胱は、その解剖構造に基づく特徴的な拡張をする。膀胱底部は骨盤底部の組織に癒着して動きが束縛されており、尿の蓄積に伴う膀胱拡張は、比較的可動性のある小腸を押し退けながら、主として頭部方向に広がっていくものであることがMRI測定により確認されている。この拡張方向に沿って4つの超音波発振素子3が一定間隔に配列されている。

[0018] 処理部2は、図1に示すように、プローブ1の4つの超音波発振素子3が発振した超音波の膀胱壁面からの反射エコーを検出・処理するためのものであり、ハードウェア部(超音波計測部)4とCPU部5とから主に構成されている。ハードウェア部4は、プローブ1の4つの超音波発振素子3及びCPU部5と電氣的に接続されており、低雑音増幅器6、AD変換回路7、波形メモリ8、タイミング発生回路9、超音波振動子励振回路10とから構成されている。

[0019] 腹部表面上に装着されたプローブ1の超音波発振素子3は、タイミング発生回路9及び励振回路10によって、超音波を膀胱壁面に向けて発振する。各超音波発振素子3が発振した超音波の膀胱壁面からの反射エコーは、低雑音増幅器6で増幅され、AD変換回路7によってデジタル信号に処理されて、波形メモリ8に格納される。

- [0020] 尿の蓄積に伴い膀胱が拡張するとき、最初に膀胱底部寄りに超音波を発振する素子3による膀胱後壁エコー(反射エコー)のピークが出現し始め、さらなる膀胱容量増加とともに、頭部寄り素子3においても次第に膀胱後壁エコーピークが検出されていく。従って、各素子3によるエコーの波形を重ねて表示すれば、膀胱後壁エコーピークの数が増えていくことで、膀胱の拡張を視覚的に容易に認知することができる。
- [0021] CPU部5は、各超音波発振素子が発振した超音波の膀胱壁面からの反射エコー(デジタル信号)から、膀胱の後壁の超音波エコーピーク(P)(デジタル信号)を検出し、この検出された超音波エコーピーク(P)と、該超音波エコーピーク(P)から特定される膀胱の前壁と後壁との距離(D)とを各超音波発振素子においてそれぞれ乗算し、その乗算された各数値を加算した測定指標値(PD)を算出する(図2参照)。そして、この算出された測定指標値(PD)と、予め設定された、解剖構造に基づく個人差や測定中の姿勢に対応した係数とを乗算して、膀胱内の尿量を精度良く推定する。
- [0022] すなわち、測定指標値(PD)は、膀胱後壁の超音波エコーピーク(P)の出現により特定される膀胱の前壁と後壁との距離(D)をエコーピーク(P)の強度と掛け合わせ、各素子3について足し合わせることによって算出されるものである。この算出方式は、膀胱壁超音波エコー波形の出現様相の実態を踏まえた波形処理に基づくものである。この指標の定量性が十分であることは臨床検査場面における測定により確認された。この指標値に適当な係数(予め設定された、個人差や測定中の姿勢に対して補正する係数)を乗算することにより、解剖構造等の個人差や臥位・立位・座位姿勢等の状況にも対応することが可能であり、もって、膀胱内の尿量を精度良く推定することが可能となる。
- [0023] 膀胱内への尿の蓄積に伴って、指標値は大きくなっていくが、その値にはバラ付きがのってくる。これは、膀胱壁面での超音波の反射メカニズムに由来するもので、バラ付きそのものは不可避的なものである。一回毎の指標値はバラ付くけれども、時系列的傾向としては、尿の蓄積と極めて良好な対応を示すものであるから、適切な時系列的データ処理を施すことにより、妥当な膀胱内尿量推定値を得ることができる。最適データ処理を実現するためには、膀胱壁面の時空間変動特性に寄与する要因に関する詳細な情報が必要となる。実際問題としては、リアルタイムでの最適データ処

理は不可能であるから、予測処理等の簡易処理法を用いることになり、状況に合わせた時空系列処理法の選択が求められる。

[0024] そこで、実施例においては、拡張方向に超音波素子3を4個組込んだプローブ1の下端を恥骨の上端に合わせて装着し、1秒毎に10回測定(すなわち10秒間測定)した指標値(PD)の中から、大きな値2個、小さな値2個を除いた6個の値の平均値を出力する。これを2分毎に繰返す(バースト状に複数回行う)実験測定(バーストサンプリング平均化処理)を実施したところ、良好な結果が得られ、簡易処理法として有望なものであることが認められた。図3(a)には、そのときのデータを示している。また、図3(b)に示すように、図3(a)に示すデータに対してさらに移動平均処理(時空系列平均化処理)を行えば、より精度の高い尿量推定値を得ることができる。

[0025] 上述のようにして得られた尿量推定値(結果)は、表示部11(図1参照)によって表示することができると共に、記録部12に記録させることができる。また、図1に示すように、表示部11によって推定尿量値を求めるのに必要なパラメータ、アラーム閾値等の設定が可能であると共に、符号13で示すように、ブザー、振動ブザー、LED等から成る警報部(アラーム出力機能)を備えることも可能である。なお、表示部11、記録部12及び警報部13は、CPU部5と電氣的に接続されている。

[0026] また、符号14に示すように、超音波尿量センサは無線データ通信機能(ワイヤレス)を備えることも可能である。この無線通信機能14は、CPU部5と電氣的に接続されている。この場合、例えば、図4に示すように、本発明に係る超音波尿量センサの無線データ通信機能から発せられた情報(信号)を、中継ユニット16を介し又は直接に、病院、施設等に設けられた通信機能(LAN若しくは専用線路)を通じて、ナースセンター17に患者の状態を知らせることが可能となる。また、符号18で示すように、ナースセンター17だけでなく、介護者にも患者の状態を知らせることが可能である。さらに、符号19で示すように、担当医・担当看護師に対しては、院内PHS等の伝達手段を通じて延滞無く速やかに伝えることも可能である。また、符号20に示すように、中継ユニットから大型表示器に情報を表示させることもできる。このように、無線データ通信機能を備えることにより、医者、看護師、介護者等の関係者に患者の状態を延滞無く速やかに知らせることが可能となる。



- [0027] また、超音波尿量センサは、着脱可能な記憶媒体15を備えることが可能である。この記憶媒体15は、CPU部5と電氣的に接続されており、CPU部5から尿量推定値(結果)、超音波波形及び演算結果等の情報信号が記憶媒体15に送信され、記憶媒体15で保存される。この着脱可能な記録媒体15に保存されたデータは、パーソナルコンピュータ等で復元することができ、診断等に利用されることが可能である。
- [0028] また、図1に示すように、CPU部5は、予め設定された時間ごとに信号を出力するリアルタイムクロックを備えることが可能である。CPU部5は、リアルタイムクロックから出力された信号に基づいてハードウェア部4を制御し、計測を定時的に行うことができる。また、超音波尿量センサは、リアルタイムクロックの信号の出力で自動的に電源が入るようにし、計測が終了すると予め設定された時間経過後に電源が切れるようにすることも可能である。このようにすることにより、低消費電力化を図ることができる。
- [0029] また、図1に示すように、CPU部5は、低雑音増幅器6のゲインを制御するゲイン制御部を備えることが可能である。このゲイン制御部によって低雑音増幅器6の増幅率を自動制御(AGC等)することが可能となる。
- [0030] また、プローブ1は、3軸加速度センサ(図示せず)を備えることが可能である。これによって、患者の立位、座位、臥位等の姿勢(患者の地軸に対する姿勢)を自動認識して、推定尿量値の補正演算アルゴリズムを自動的に選択することが可能となり、測定精度をより高めることが可能となる。
- [0031] また、複数の超音波発振素子3から得られるエコーの規則性から超音波発振素子3の体表面との装着状態の異常を監視すると共に是正することも可能である。また、体動により膀胱内推定尿量にばらつきが発生した場合、膀胱内尿量の増加特性に沿った補正を自動的に行い推定尿量値の精度を向上させることも可能である。さらには、超音波の膀胱後壁エコー及びその後方にある臓器エコーの状態を監視し、尿意を患者に代わって認識することも可能である。すなわち、膀胱内尿量が排尿水準に達した時に膀胱後壁エコー高さが短時間に高くなる。これは、膀胱からの反射効率が良くなることを示しており、このとき、反射効率が上がると膀胱後壁の後方にある臓器エコーからのエコー高さが小さくなる。従って、それぞれのエコーの相関から患者に代わって尿意として第3者が患者に知らせることが可能となる。

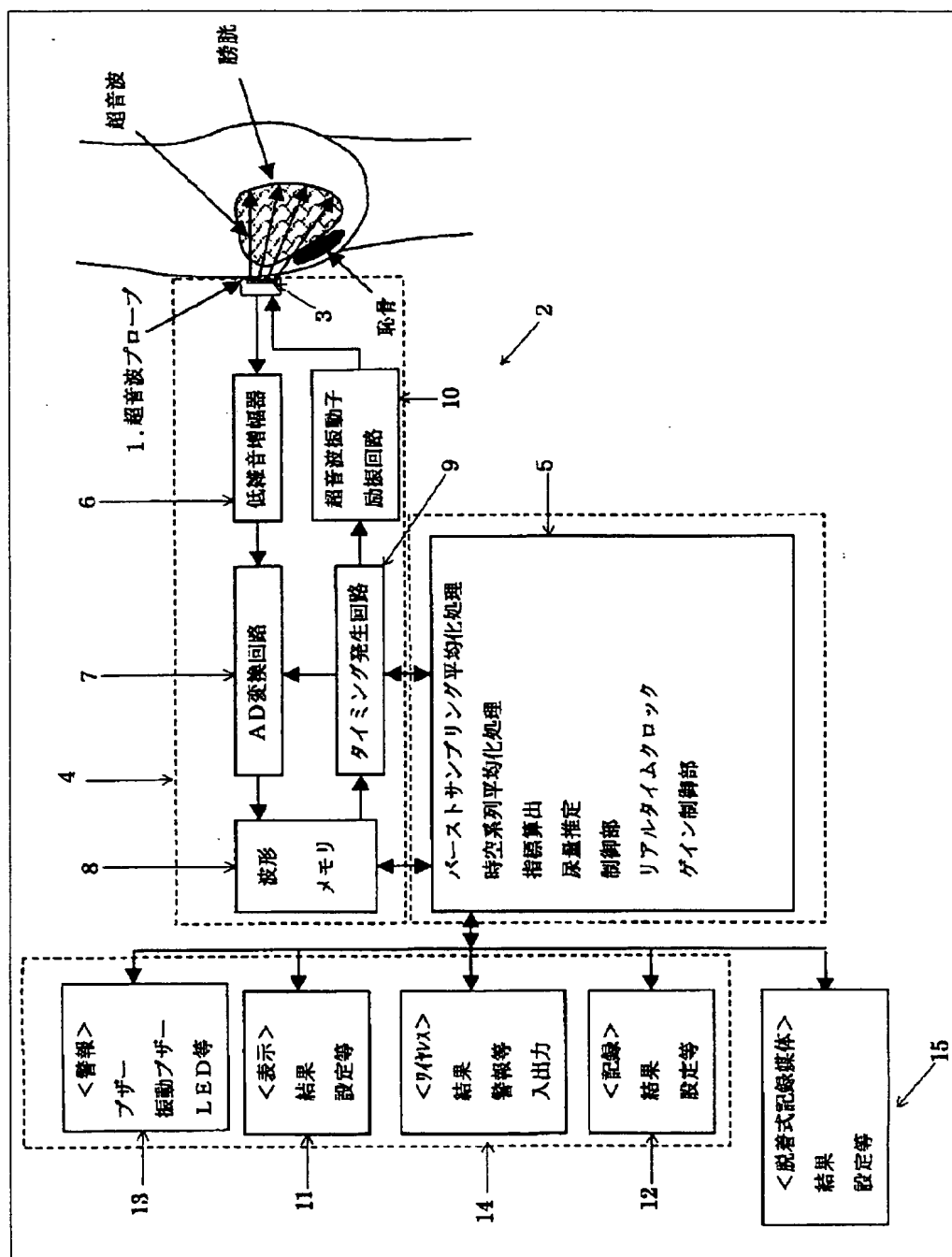
[0032] また、プローブ1は、測定時だけでなく、常時患者の腹部表面上に装着させることが可能である。例えば、両面テープが付いた超音波伝達媒体としての超音波結合シートを利用して常時装着させることができる。これによって、患者の尿量を常時測定することが可能となる。

### 請求の範囲

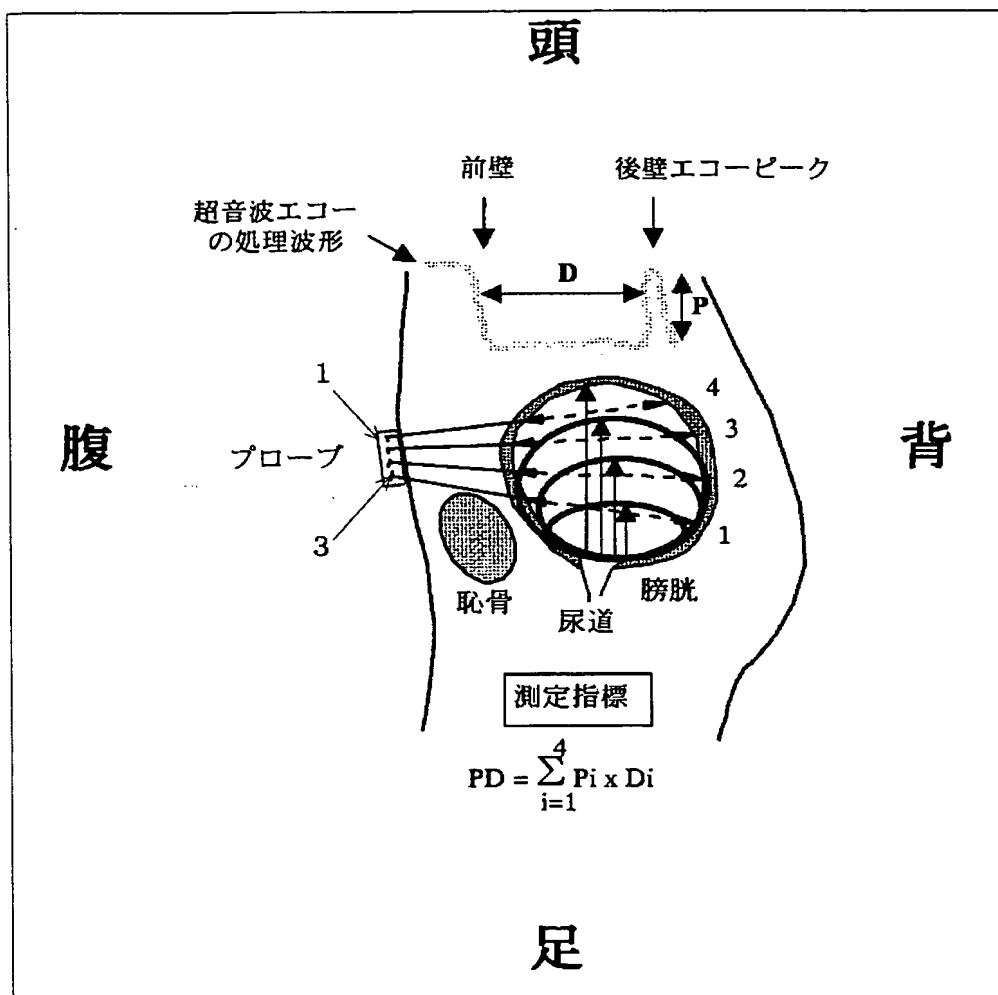
- [1] 超音波を膀胱壁面に向けて発振する複数の超音波発振素子を有し、超音波伝達媒体を介して腹部表面上に装着されたプローブと、  
前記プローブの前記複数の超音波発振素子が発振した超音波の膀胱壁面からの反射エコーを検出・処理する処理部とを備え、  
前記複数の超音波発振素子は、膀胱の拡張方向に沿って配列されていることを特徴とする超音波尿量センサ。
- [2] 請求項1に記載の超音波尿量センサにおいて、  
前記プローブは、該プローブの下端部が、腹部表面上の恥骨上端部に位置するように装着されていることを特徴とする超音波尿量センサ。
- [3] 請求項1又は2に記載の超音波尿量センサにおいて、  
前記プローブは、測定時だけでなく常時、超音波伝達媒体を介して腹部表面上に装着させることが可能であることを特徴とする超音波尿量センサ。
- [4] 請求項1乃至3のいずれか一項に記載の超音波尿量センサにおいて、  
前記処理部は、前記各超音波発振素子が発振した超音波の膀胱壁面からの反射エコーから、膀胱の後壁の超音波エコーピーク(P)を検出し、  
この検出された超音波エコーピーク(P)と、該超音波エコーピーク(P)から特定される膀胱の前壁と後壁との距離(D)とを各超音波発振素子においてそれぞれ乗算し、その乗算された各数値を加算して測定指標値(PD)を算出し、  
前記測定指標値(PD)と、解剖構造に基づく個人差や測定中の姿勢に対応した係数とを乗算することによって膀胱内の尿量を精度良く推定することを特徴とする超音波尿量センサ。
- [5] 請求項4に記載の超音波尿量センサにおいて、  
前記処理部は、ハードウェア部とCPU部とを備えており、  
前記ハードウェア部は、前記プローブの複数の超音波発振素子及び前記CPU部と電氣的に接続されており、低雑音増幅器、AD変換回路、波形メモリ、タイミング発生回路及び超音波振動子励振回路を備えていることを特徴とする超音波尿量センサ。

- [6] 請求項5に記載の超音波尿量センサにおいて、  
前記CPU部は、予め設定された時間ごとに信号を出力するリアルタイムクロックを備えており、前記CPU部は、該リアルタイムクロックから出力された信号に基づいて前記ハードウェア部を制御することを特徴とする超音波尿量センサ。
- [7] 請求項5に記載の超音波尿量センサにおいて、  
前記CPU部は、前記低雑音増幅器のゲインを制御するゲイン制御部を備えており、該ゲイン制御部によって前記低雑音増幅器の増幅率を自動制御することを特徴とする超音波尿量センサ。
- [8] 請求項5に記載の超音波尿量センサにおいて、  
前記超音波尿量センサは、着脱可能な記憶媒体を更に備えており、  
前記CPU部は、前記記憶媒体と電氣的に接続されていることを特徴とする超音波尿量センサ。
- [9] 請求項5に記載の超音波尿量センサにおいて、  
前記超音波尿量センサは、無線データ通信機能を更に備えており、  
前記CPU部は、前記無線データ通信機能と電氣的に接続されていることを特徴とする超音波尿量センサ。
- [10] 請求項5に記載の超音波尿量センサにおいて、  
前記プローブは、3軸加速度センサを備えていることを特徴とする請求項5に記載の超音波尿量センサ。

[図1]



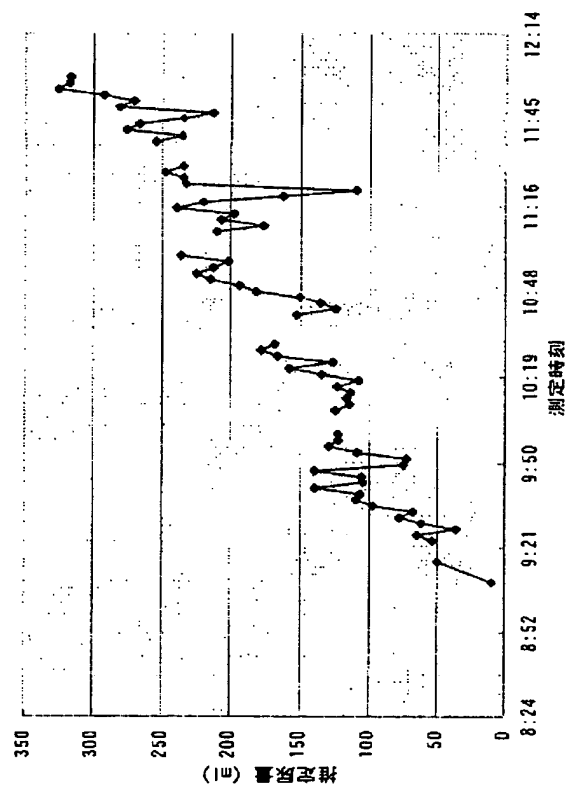
[図2]



[図3]

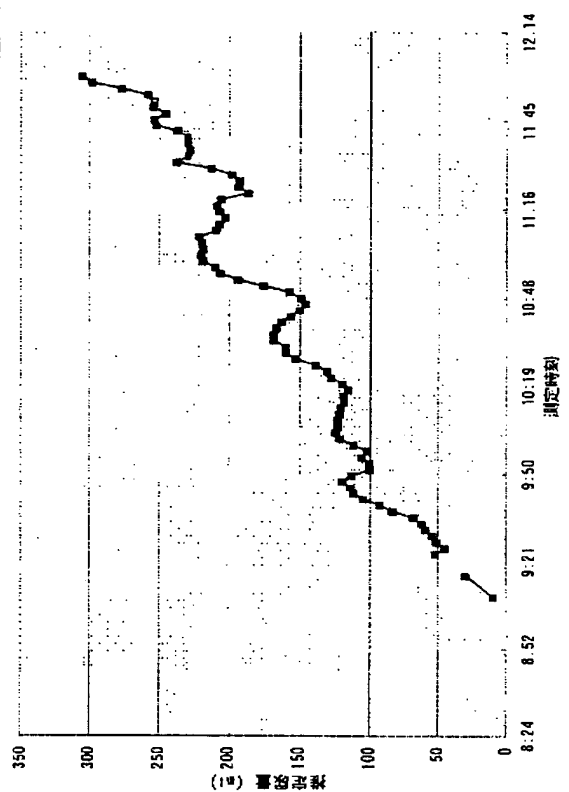
# 時系列平均化処理の効果

処理前



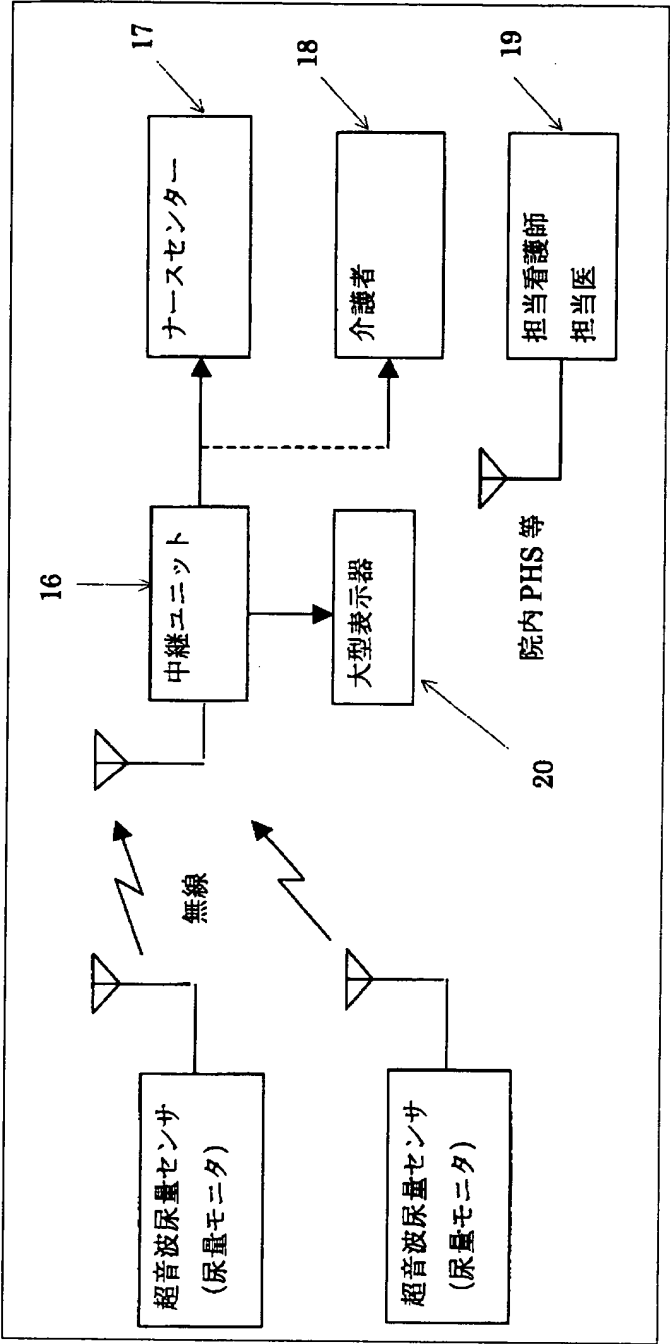
(a)

処理後



(b)

[図4]





## INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.

PCT/JP2004/019348

A. CLASSIFICATION OF SUBJECT MATTER  
Int.Cl<sup>7</sup> A61B8/08

According to International Patent Classification (IPC) or to both national classification and IPC

## B. FIELDS SEARCHED

Minimum documentation searched (classification system followed by classification symbols)  
Int.Cl<sup>7</sup> A61B8/00-8/15

Documentation searched other than minimum documentation to the extent that such documents are included in the fields searched

Jitsuyo Shinan Koho	1922-1996	Toroku Jitsuyo Shinan Koho	1994-2004
Kokai Jitsuyo Shinan Koho	1971-2004	Jitsuyo Shinan Toroku Koho	1996-2004

Electronic data base consulted during the international search (name of data base and, where practicable, search terms used)

## C. DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT

Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
X Y	JP 2001-120545 A (Director General, Agency of Industrial Science and Technology, Hiroyuki KODAMA, Kabushiki Kaisha Takeshiba Engineering), 08 May, 2001 (08.05.01), Full text; all drawings (Family: none)	1, 3 2, 4-10
Y A	JP 7-171149 A (Director General, Agency of Industrial Science and Technology, Hiroyuki KODAMA), 11 July, 1995 (11.07.95), Full text; all drawings (Family: none)	2 1, 3-10

☒ Further documents are listed in the continuation of Box C.☐ See patent family annex.

* Special categories of cited documents:	"T" later document published after the international filing date or priority date and not in conflict with the application but cited to understand the principle or theory underlying the invention
"A" document defining the general state of the art which is not considered to be of particular relevance	"X" document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered novel or cannot be considered to involve an inventive step when the document is taken alone
"E" earlier application or patent but published on or after the international filing date	"Y" document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered to involve an inventive step when the document is combined with one or more other such documents, such combination being obvious to a person skilled in the art
"L" document which may throw doubts on priority claim(s) or which is cited to establish the publication date of another citation or other special reason (as specified)	"&" document member of the same patent family
"O" document referring to an oral disclosure, use, exhibition or other means	
"P" document published prior to the international filing date but later than the priority date claimed	

Date of the actual completion of the international search  
13 January, 2005 (13.01.05)Date of mailing of the international search report  
08 February, 2005 (08.02.05)Name and mailing address of the ISA/  
Japanese Patent Office

Authorized officer

Facsimile No.

Telephone No.

## INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.

PCT/JP2004/019348

## C (Continuation). DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT

Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
Y A	JP 2000-210286 A (Kasei Optonix, Ltd.), 02 August, 2000 (02.08.00), Full text; all drawings (Family: none)	4-10 1-3
Y	JP 2002-34934 A (Matsushita Electric Industrial Co., Ltd.), 05 February, 2002 (05.02.02), Full text; all drawings (Family: none)	8
Y	JP 11-206721 A (Sanyo Electric Works, Ltd.), 03 August, 1999 (03.08.99), Full text; all drawings (Family: none)	9
Y	JP 2004-81632 A (Nihon University), 18 March, 2004 (18.03.04), Full text; all drawings (Family: none)	10

## A. 発明の属する分野の分類 (国際特許分類 (IPC))

Int. Cl<sup>7</sup> A61B8/08

## B. 調査を行った分野

## 調査を行った最小限資料 (国際特許分類 (IPC))

Int. Cl<sup>7</sup> A61B8/00-8/15

## 最小限資料以外の資料で調査を行った分野に含まれるもの

日本国実用新案公報 1922-1996年  
 日本国公開実用新案公報 1971-2004年  
 日本国登録実用新案公報 1994-2004年  
 日本国実用新案登録公報 1996-2004年

## 国際調査で使用した電子データベース (データベースの名称、調査に使用した用語)

## C. 関連すると認められる文献

引用文献の カテゴリー*	引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	関連する 請求の範囲の番号
X Y	JP 2001-120545 A (工業技術院長、児玉廣之、株式会社タシエエンジニアリング) 2001.05.08 全文、全図 (ファミリーなし)	1、3 2、4-10
Y A	JP 7-171149 A (工業技術院長、児玉廣之) 1995.07.11 全文、全図 (ファミリーなし)	2 1、3-10
Y A	JP 2000-210286 A (化成オプトニクス株式会社) 2000.08.02 全文、全図 (ファミリーなし)	4-10 1-3

☒ C欄の続きにも文献が列举されている。☐ パテントファミリーに関する別紙を参照。

## \* 引用文献のカテゴリー

「A」 特に関連のある文献ではなく、一般的技術水準を示すもの  
 「E」 国際出願日前の出願または特許であるが、国際出願日以後に公表されたもの  
 「L」 優先権主張に疑義を提起する文献又は他の文献の発行日若しくは他の特別な理由を確立するために引用する文献 (理由を付す)  
 「O」 口頭による開示、使用、展示等に言及する文献  
 「P」 国際出願日前で、かつ優先権の主張の基礎となる出願

の日の後に公表された文献

「T」 国際出願日又は優先日後に公表された文献であって出願と矛盾するものではなく、発明の原理又は理論の理解のために引用するもの

「X」 特に関連のある文献であって、当該文献のみで発明の新規性又は進歩性がないと考えられるもの

「Y」 特に関連のある文献であって、当該文献と他の1以上の文献との、当業者にとって自明である組合せによって進歩性がないと考えられるもの

「&amp;」 同一パテントファミリー文献

国際調査を完了した日

13.01.2005

国際調査報告の発送日

08.2.2005

国際調査機関の名称及びあて先

日本国特許庁 (ISA/JP)

郵便番号100-8915

東京都千代田区霞が関三丁目4番3号

特許庁審査官 (権限のある職員)

後藤 順也

2W

3101

電話番号 03-3581-1101 内線 3290

C (続き). 関連すると認められる文献		
引用文献の カテゴリー*	引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	関連する 請求の範囲の番号
Y	J P 2002-34934 A (松下電器産業株式会社) 2002.02.05 全文、全図 (ファミリーなし)	8
Y	J P 11-206721 A (株式会社三陽電機製作所) 1999.08.03 全文、全図 (ファミリーなし)	9
Y	J P 2004-81632 A (学校法人日本大学) 2004.03.18 全文、全図 (ファミリーなし)	10